

令和 年 月 日 () 校時 : ~
() 学校 年 組 計 名
指導者 ○○ ○○ ㊞

【年間指導計画 () 学年 P () 月計画】

1 主題名 「 」 「 - () 」

原則として年間指導計画における主題名と本時に係る内容項目を記述する。

2 教材名 「 」 出典 ()

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

(2) 児童（生徒）の実態

(3) 教材について

(1) ねらいとする道徳的価値について学習指導要領の内容項目を基に記述する。

(2) 本時のねらいに沿ったアンケート等の活用で、児童生徒のこれまでの学習状況や実態を把握し、教師の願いなどを記述をする。

(3) 使用する教材の特質について、それを生かす具体的な活用方法、指導の方策などを記述する。
(新学習指導要領解説 小：P80、中：P78～P79 参照)

4 本時の学習

(1) ねらい

1時間の授業で授業者が指導を意図する道徳的価値（内容項目）と養うべき道徳性の様相を記述する。

(2) 授業の工夫

本時の学習において、ねらいに迫る手立てや工夫した指導方法などを具体的に示す。
(例) ○○○の場面において（場の設定）、○○○する（手立て、方法）

指導上の留意点には、評価の見取り方についても記入する。

(3) 展開

教材研究や授業展開に沿ってマイノートを活用し、検討する。

	学習活動	主な発問	予想される児童（生徒）の反応	指導上の留意点
導入 () 分	内容項目への働きかけ (気づき・「問い」)	子供たちの生活体験との関わりを基に気づきや「問い」を引き出す 導入ではこれまでの生活体験との関わりを大切にし、子供の気づきや「問い」を引き出す手立てを工夫する。よりよい気づきや「問い」が1時間の学習の充実に大きく影響する。		
	問題把握 (学びの方向性)	本時に考えたいことを焦点化し、方向づける 主題に対する興味・関心を高めるための発問を行い、1単位時間にクラス全体で考えたいことを焦点化し、子供が主体的に主題に関わる意識を持たせるようにする。		
展開 () 分	教材との対話 (範読)	教材を基に自分事として受け止めさせる 焦点化された問題を基に教材に描かれている道徳的価値にふれさせることができるよう、自分の価値観と照らし合わせながら範読したりCDを聞かせたりすることが大切である。		
	 自分との対話 (自己を見つめる) 他者との対話 (多面的・多角的な考え)	基本・中心発問等を基に自分の考えを整理する時間を確保する ねらいの根底にある道徳的価値の理解を基に自己を見つめる段階である。児童生徒の実態と教材の特質をおさえた発問をし、児童生徒の一人一人の感じ方、考え方を育むようにする。		
		自己の考えを基に他者と交流する場面を設定する 児童生徒の道徳的価値に対する感じ方や考え方を生かし、他者との対話を行いながら、物事を多面的・多角的に考えられるようにする。その際、ペア、グループ、全体等、様々な形態で話し合う場面をつくる。		
		新たに生まれた「問い」や問い返しにより、自分の考えを再整理させる 物事を多面的・多角的に考えたことにより生じた疑問、教師の問い返し等を生かしながら、子供に改めて考えさせる場面をつくり、感じ方や考え方を深めていく。		
終末 () 分	振り返り (自己の考えを深める)	内容項目について学んだことを整理させる 終末では、ねらいの根底にある道徳的価値に対する思いや考えをまとめたり、道徳的価値を実現することの難しさなどを確認したりして、今後の学びにつなげる。		
	振り返りの共有 (新たな「問い」)	自分の考えを深めさせ、新たな「問い」につなげる 子供たち一人一人が感じ、考え、整理したことを共有させ、互いを認め、励まし、それぞれの成長を実感させるようにする。		

※問題解決的な学習や自我関与、体験的な活動など様々な指導方法を組み合わせましょう。→『問いサボ』P31

5 評価

1時間の授業の中で期待する子どもの姿（児童生徒の学習活動に着目する）を記述する。（ねらいを達成したかどうかを評価するものではありません）

(新学習指導要領解説 小：P107～P116、中：P109～P118 参照)

6 事後指導

豊かな体験活動や日常的な指導、各教科等での指導との関連をはじめ事前の実態把握や事後の個別的な指導、家庭や地域社会との連携も含めて記述する。

7 板書計画

（写真も可。項目だけでなく、実際に板書することを書く。ICT機器の活用等についても記載）

※ 指導案の提出にあたっては、教材文を添付すること。